

2016年(平成28年)

第106号

(10月1日)

平安月報

The HEIAN monthly report

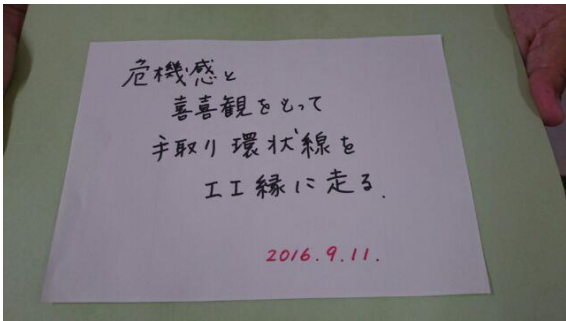
発行所：立正佼成会 京都教会
発行責任者：渉外部長 田中規之
編集委員長：渉外広報 植田恭司
〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

めっちゃええおっちゃん！ 約500人が大阪に集結！！

9月11日(日)、立正佼成会大阪普門館において、「まってるでえ、めっちゃええおっちゃん！」をテーマとした近畿支教区壮年布教大会が行われ 520名が結集しました。庭野光祥次代会長も参加した素晴らしい大会となり、京都教会からも28名が参加しました。今回の大会は体験共有型のもので、参加者は事前に手どりの中で実感したものを持ち寄って熟議するというものでした。

参加者は午前中10人一組の50班に分かれ『手取りに歩く』を議題に熟議ワークに取り組みました。各班からは「教会の行事に誘うばかりで、次につながる手取りができていなかった」「訪ねて行っても会ってもらえないことも多いが、少しでも話しができ気持ちを共有できた時は感動した」などの意見が出されました。その後10班ごとに意見を集約する5つのグループでの討議が行われました。

午後からは全員が法座席に集まり全体討議が行われ、庭野次代会長、中村習学部長、松本近畿支教区長、そして各グループの代表者5名が登壇し出射支教区長の進行のもとディスカッションがありました。各班の提案や意見について議論を深め「めっちゃええおっちゃんとは、危機感と喜喜観を持って手取り環状線を工工縁(永遠)に走る」という言葉にまとめ、庭野次代会長が直筆しました。



閉会式で庭野次代会長は、人と人との結びつきが弱い「関係の貧困」といわれる社会の現状を挙げながら、男性は女性に比べて孤独になりやすい傾向にあると指摘され、今回の“まとめの言葉”の意義にふれ「今の時代に本当に必要とされていることが、このひと言に込められています」と述べました。

最近、京都のまちなかに自動車専用レーンが増えています。歩道とバス停の間に専用レーンがある七条通のバス停は、屋根付きで、自転車のバス待ちの人が交錯しない島方式になっていて、路面電車のホームのようになっています▼これは徒歩や自転車・公共交通機関による「ひと」が主役の「まちづくり」。自動車に依存せず、環境にやさしく、市民が安寧に暮らせる「コンパクトシティ」を目指しています▼先日、京都市内の自転車マナーの調査結果が発表されました。交差点で一時停止する自転車は3・5%。信号無視は22・0%。夜間のライト使用率は74・6%だったそうです▼このような状況では、専用道を整備しても、安全とはいえません。交通ルールへの意識を高める必要があります▼ルールはあっても守らなくなることが多いです。教えは説かれても、修行する者も悟りを開く者もいなくなると言われています。宗教者は率先してルールを守りたいものです。

時事刻々

今月のことば ～「祈りの先に…」～

教務部教務員 川野輪佳代子

今月は、教務部教務員の川野輪が担当させて頂きます。宜しくお願い致します。

私事ではありますが、今年二人目の孫が産まれました。新しい命を頂くと「この子が健やかに育ちますように」と、自然に手を合わせ祈ってしまいます。又、先月は「敬老の日」がありました。健康を長寿を、との思いで祈られた方も多いと思います。何かあるごとに、自然に「祈る」という事ができるのは、宗教心が代々伝えられている民族だだと思います。10月号の「佼成」では、『祈りの先に……』というご法話を、会長先生より頂いております。

前段では、【祈りとは】ということをお教え致します。かつて開祖さまから、「信仰という、苦からの救われや願望成就を願って神仏に祈ることと考えられがちですが、神仏に祈るだけでなく、仏法すなわち真理に随順した生き方を旨とするのが信仰です」と、お教え頂きました。人は皆、悩みや苦しみがあると、なんとかこの状況から抜け出したい、好転させたいとの思いから、「～になりますように」と祈願する事が多いと思います。

私の一人目の孫は、2番染色体異常と合併症の障害を持って生まれました。生後3ヶ月の時には、小児科の先生から「話す事も歩く事もできず、寝たきりになります」と言われた時には、「少しでもこの子が動く事ができますように。少しでも話す事ができますように」と、神仏に強く願いました。願えば願う程、一生懸命生きようとしている孫の姿を見ると、今のままではダメなんだ、もっともっと無理難題を押し付けているようにも思えました。

そして、後段の【信仰を深める契機に】では、祈りには「苦しみから抜け出したい」という声や思いをまごころで受け止めていくのは当然のことです。と教えて頂きますが、もう一方で、私たちは祈願の先にある大事なことを、常に忘れてはならない事も教えて頂きます。その大事なことは、「生老病死は人生につきものである。だからこそいま生きていることの有り難

さに気づいてほしい」という仏の願いです。

生きる事に精一杯な孫に、あれもこれもと大きな期待を自分勝手に押し付け、思うようにならない事に苦しむ私でしたが、親である娘を見ていると、「可愛い可愛い」「これでいいかな？このほうがいいかな？」と、一番苦しいであろう娘が、手さぐりながらもありのままの現状を受け入れ、一生懸命育てているのです。

孫が授かり生まれてきたくれたお陰さまで、娘が親らしくありのまま育てていることに、ありがたいなと言う思いが湧き上がり、孫と娘から素直にありのまま受け入れることの大切さを教えて頂きました。

そう考えると、「どうぞ頂いた命を精一杯全うできますように」と願うようになり、障害があるとか、病気があるとか、短命であるとか、そういう事にあまり囚われなくなっていました。又、他の子と比べるのではなく、その子自身の一年前、二年前の成長を比べる事で、家族で喜ぶ事が増えてきました。悩み苦しきは、嫌な事ではありますが、全てに意味がある事のように思えます。

来年、孫は小学校へ上がります。まだまだ年齢通りではありませんが、多くの方のお陰さまで走る事もでき、話す事もできるようになってきました。先生に宣告された通りになっていない事に、なんとも言えない不思議を感じさせて頂いておりますし、なによりも孫のお蔭で、家族がありのままを受け入れ、それぞれのやさしさを発揮し、あかるく温かな家庭になっている事が、とてもありがたいです。

お願い参りも祈りも、それら神仏と向きあう機会はすべて、仏さまが「大切なことに気づくように」と願って与えて下さった契機です。そのことをよくかみしめて、日々の暮らしのなかでもども信仰を深めてまいりましょう。と、結んで頂いております。「悩みや苦しみを、信仰を深める契機」と受け止め、自分の心を整え、ふれあう方々にやさしく、明るく、温かく接していけるよう心がけたいと思います。 合掌

ありがとう運動 ～標語・川柳・詩など大募集！～

京都教会では「ありがとう」1日100回運動の一環として8月15日戦争犠牲者慰霊・平和祈願の日から10月10日脇祖さまご命日までの間、「ありがとう」コンクールを実施しています。

応募内容は「ありがとう」の感動を表現したもので、標語・川柳・詩などでも構いません。一人一作品で専用用紙に記入し、法座席設置の応募箱に投函すると、推進委員会において選考され、後日発表されるとともに記念品が授与されます。結果はこの紙面においても

掲載します。

昨年の受賞作品

【最優秀作品】

「日々の感謝に 言葉を添えて

今日も多くの ありがとう」

【優秀作品】

「ありがとう 言えると みんな いい気持」

「定年も 働ける身の ありがたさ」

第13回奈良県宗教者フォーラム ～日本のこころと宗教の役割～

9月25日、奈良県の法隆寺聖徳会館において「第13回奈良県宗教者フォーラム」が行われ、およそ280名が集まり、京都教会からも代表者5名が参加しました。

開会挨拶に立った古谷正覚（法隆寺執事長）実行委員長は聖徳太子1400年御遠忌を2022年に迎えることにふれ、様々な日本遺産の登録に取り組んでいきたいと述べました。

来賓挨拶は大野玄妙氏（法隆寺管長）と荒井正吾氏（奈良県知事）が行い、大野氏は平成16年から始まったこの宗教者フォーラムを今後も続け、奈良県をはじめ全国の皆さんの幸せを念じていきたいと抱負を述べました。荒井氏は政教分離の原則から行政が支援できる取り組みの限界や実際に行った事例などを紹介し、今後も行政と神社が協力してイベントを開催することで街を活性化したり、両者がWIN-WINの関係になるようにしていきたいと力強く述べました。

その後、『日本のこころと宗教の役割—聖徳太子のこころ—』と題し、二人の講師が講演を行いました。初めに南谷恵敬氏（和宗総本山四天王寺執事）が「聖徳太子の教え—十七条憲法の内容について解説しました。制定の経緯では604年に十七条憲法と冠位十二階が制定されたと説明し、この年は甲子（きのえね）にあたり、干支の初めの年に制定されたことに大きな意味がある」としました。また十七条憲法は国の基本的な決まりで人々が守るべきものであるとし、国の理想的な姿を示している

と解説しました。特に最も大事なものは第一条から第三条までで、第一条「以和為貴」和を以(も)って貴(とうと)しとなし、第二条「篤敬三宝」篤(あつく)く三宝(さんぼう)を敬え、第三条「承詔必謹」詔(みこと)のりを承(う)けては必ず謹(つつし)めと、その内容を詳しく説明しました。第四条から第十七条までは分類別によって紹介しました。参加者全員に聖徳太子憲法十七條の小冊子を配布し講演を終えました。

次にひろさちや氏（仏教思想家）が「仏教をどう生きるか」という内容で講演しました。あるがまま生きるのが仏教であり、四諦のとらえ方を様々な例で説明すると、会場からは笑いに包まれました。貧乏人は貧乏人のまま生きるのが大切で、貧乏人が金持ちになるのが仏教の生き方ではないと述べました。また四諦とは「苦集滅道」であると説明し、苦は思うがままにならないこと、集は原因を意味し、それは一つではなく、いろいろな因縁が集まって苦しい状態になり、苦しみをなくそうなんて思わないこと、滅は原因をなくすことととらえがちだが、コントロールすることで、それは“いい加減にする”ことであって、中途半端にすることではないと中道の考えを披露しました。

熱い湯が好きな人は熱い湯がいい加減、ぬるい湯が好きな人はぬるい湯がいい加減で、その人に合わせたいい加減を見つけるのが大切だと説明しました。あくせく、イライラ、ガツガツと生きるのではなく、のんびり、ゆったり、ほどほどに生きることが大切だと結びました。最後に森好央（石上神宮禰宜）副実行委員長が感謝の意を述べ、閉式しました。



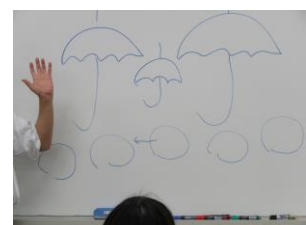
第2回青年カフェ ～地域を良くするには、ほっとけない気持ちが大切～

8月27日、青年カフェと題し政治学習会が開催され青年層を中心に20名が参加し、府議会議員さんから身近に政治についての講習がありました。

夏の参議院選挙も終わり、日頃から政治に関しては意識を持っておくために継続開催になった当カフェに今回初参加の青年部員もおり、少し難しかったという感想はあったものの、自分たちの住んでいる地域の課題に意識を持っておくことの大切さを学びました。

府議会議員は条例（ルール）を決めることが主な仕事の一つであると学び、そのためには市民一人ひとりの、地域を良くしたいという「ほっとけない」気持ち

が大切でこの気持ちから政策が生まれるとし、傘を例えに濡れない人を作ることが大切と説明を受けました。今後はより地域に根差した形でカフェを開催するなど、様々な検討を行いながら政治に関して取り組んでいきたいと思ひます。



法華經にみる平和の教え『法華經の世界観』～庭野開祖著『平和への道』より～

先月号は、このコーナーを休みましたが、庭野日敬開祖の入寂された日（10月4日）ですので、このコーナーを再開します。今回は『法華經的な平等観』に裏付けされた人間平等の精神が世界平和の支柱になると学びました。今回は、「人間を心底尊重できるのは、すべての人に成仏の可能性があるから」という庭野開祖の考えを学びます。（編集部）

「諸法実相」「十如是」の法門は、たんに人間の「本質の平等」を教えているばかりでなく、「現象の上における人間のあり方も、心の持ちようによって、どのようにでも変化・流動させうる」ことを説いているのです。すなわち「開発の可能性の平等」をも教えているわけです。

現象として現れているわれわれ人間には、それぞれの個性があります。すなわち、持ち前の相・性・体・力・作を持っているのです。しかし、それとても宇宙の実体である<空>によってできているわけですから、**決して固定的なものではありません**。ある原因

（因）と条件（縁）を与えさえすれば、それにふさわしい結果（果）や影響（報）が現れてくるのです。

したがって、人間の心の中には、地獄へ墮ちる可能性もあれば、仏の境地へ上れる可能性もちゃんと具わっているのです。このように、法華經でいう成仏とは、人格を完成して**最高のめざめの境地に達する**という意味で、決して人間とかけ離れた人格をもつ仏となるということではありません。これはたいへん重大なことであって、言葉を替えていうならば、**成仏とは「人間としての、ほんとうのすがた、人間としての、ありのままのすがたを完成する」**という意味です。

この**ありのまま**ということ、われわれは深く考えなければなりません。われわれ人間は、もともと宇宙の大生命と一体の、美しく、聖なる存在であるのに、無明に惑わされ、煩惱の垢をいっぱい身につけているために、**ありのままのすがた**からはるかに遠い、汚れた状態に陥っています。しかし、仏陀の教えられた真理を悟り、その真理のまにまに心を行為を正していけば、いつかは、その**ありのままのすがた**を自分の身に顕現することができるのです。それをこそ成仏という

のであって、**けっして、人間らしくない、神さまらしい存在になることではない**のです。

それにしても、すべての人間にそのような可能性が与えられているとは、なんと**いうすばらしいこと**でしょう。ともすれば「この自分は、どうにも変えようがない」と思い込んでいるわれわれが、「いや、そうではないのだ。努力しだいで自分をどうにでも変えることができるのだ。仏にさえなることができないのだ」とわかれば、なんと**もいえぬ明るい希望と勇気が全身にみなぎってくるのを覚える**のではありませんか。

たんに自分に対して希望を持てるようになるばかりでなく、この諸法実相・十如是の理を悟れば、他人を見る目も違ってきます。何より大事なのは、表面に現れた個性の奥に、平等の仏性（仏となる可能性）を見るようになることができるのです。そして、今まで「**どうにもならぬ奴だ**」など見下げていた人に対しても、いや、あの人にも無限の可能性が潜んでいるのだ」という尊重の念が湧いてきます。人間尊重も、ここまでこなければホンモノではないのです。

さらに、中国の天台大師は、この十如是の訪問で教えられた人間性の変化・流動の可能性を拡大解釈して、<一念三千>ということをお説きされました。すなわち、人間の心の持ち方しだいで、三千の世界が変わるというわけです。もちろん三千というのは無数という意味ですから、心の持ち方によって人間をとりまく環境をどのようにでも変えることができるというのです。わたしが先に「心から展開される世界の平和」ということを力説したのは、こういう真理にもとづくものなのです。

10～11月の主な教会行事			●メッセージ
10月1日(土)	9:00～	朔日参り・布薩の日	<p>今年の台風の発生数は17個、昨年は27個、一昨年は23個だったことから例年より少ない訳ですが、上陸数は今年が6個、昨年は4個、一昨年も4個でした。つまり発生数は少ないものの、多くの台風が上陸したことになります。ニュースを振り返っても各地に災害が起こり避難を余儀なくされた方々が多かった印象があります。日本は地震も発生しますので、本当に自然災害の多い国です。みんなが協力し合って他者を思いやり、乗り越えていきたいと思ひます。</p>
4日(火)	9:00～	開祖さま入寂会	
10日(月)	9:00～	脇祖さまご命日	
13日(木)	9:00～	お会式・日蓮聖人遠忌法要	
11月1日(火)	9:00～	朔日参り・布薩の日	
4日(金)	9:00～	開祖さま入寂会	
6日(日)	9:00～	七五三式典	
10日(木)	9:00～	脇祖さまご命日	
15日(火)	9:00～	開祖さま生誕会	